

通貨

銀行と雜
貨店

交通と故
城

故城と地
形

に集り、新式體操を習ひ、且つ一時間、戰術の教授を受く。其の他舊軍即ち綠營歩兵三營、同馬隊一營を備ふ。

通貨は圓銀、及紅錢(錢銅)を用ひ、圓銀には、五錢、三錢、二錢、一錢、五分の五種あり、銀票即ち官發の一兩票は、贗作多きに因り注意を要す。紅錢は一兩、四百文の定めなり。

銀行には、天成號、京記號、露清銀行支店ありて、其他昇聚永、同盛和、聚興永、永裕德、聚興成、中立祥、公聚成、源順成、復泉湧等稍々大なる雜貨店よりは、油布の手形を發行す。

交通路は、東北の一路は故城(グチエン)に、南は吐魯番に、西は西湖(シーホ)を経て塔爾巴哈台(タルバハガイ)及伊犁(イリ)に通ずるものあり。

故城に達するには、六日の行程を要し、其間六里弱の古牧地(クモヂ)には人家七戸、耕地數百畝、路面平垣、次で約十二里なる阜崗縣(フカン)は百餘家と二千餘畝の耕地を有す。又十二里弱にして滋泥庄(ツイニチヨワン)に至れば人家二百餘戸、耕地二千餘畝あり、更に十里餘濟木薩(チムサ)は人家八十餘、尙ほ十餘里にして、故城に入る。路幅廣く、二輛の大車を併行せしむ路面は概ね細砂なるも、古城の西部には礫石多しと。

故城は周圍約八百米突、孚遠縣衙門、遊擊衙門のある處にして、四通八達の要地也